

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 17 日現在

機関番号：11501

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2015

課題番号：25780226

研究課題名(和文)競争ダイナミズムと適応行動の評価法開発

研究課題名(英文)development of Evaluation method for adaptive competition dynamism

研究代表者

柴田 聡 (shibata, satoshi)

山形大学・人文学部・講師

研究者番号：20609250

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究課題の成果として、評価法開発のためのモデルの提案並びにデータ収集を実施し、学会等でモデルの提案を行なった。特に、これまで行なってきた組織能力のダイナミズムに関する研究で、データの制約上行えなかった組織能力学習の一般化についての研究、ダイナミックケイパビリティ尺度の評価研究、戦略グループ論の動学化についてのモデルの提案を学会報告並びに論文によって発信した。

研究成果の概要(英文)：As a result of this study challenge, conducted a model of the proposed, as well as data collection for the evaluation method development, it was carried out a proposal of model to academic journals, societies and so on. In particular, in a study on the dynamism of the organizational capabilities you've been doing, research for the generalization of the organizational capacity learning that could not be performed on the data limitations, evaluation research of dynamic capability scale, the model for the Dynamics of the strategy group theory proposal was originated by the Society report, as well as paper.

研究分野：経営学

キーワード：経営学

## 1. 研究開始当初の背景

経営戦略研究の分野において、環境に対する企業の適応行動には学術的関心が寄せられ、ダイナミックポジショニング、ダイナミックケイパビリティ論、組織学習論、と様々な観点から分析が行われている。実務的な面においても激しく変動する環境に対応すべきかについて、産業の転換期におかれている我が国では重要な課題であり、環境適応についての学術的知見が求められている。

特に経営戦略研究の分野において、環境に対する企業の適応行動には学術的関心が寄せられ、ダイナミックポジショニング、ダイナミックケイパビリティ論、組織学習論、と様々な観点から分析が行われている。実務的な面においても激しく変動する環境に対応すべきかについて、産業の転換期におかれている我が国では重要な課題であり、環境適応についての学術的知見が求められている。

我々は、この課題に対し、組織能力の学習プロセスモデルなどの実証モデルを提示してきたが、世界的に見ても戦略論のダイナミズム研究では、概念研究、ケース・スタディに基づく議論が殆どであり、データというエビデンスに基づく研究は必ずしも十分ではない。そのため概念の妥当性の検証やケース・スタディの一般化について課題を抱えており、企業戦略のダイナミクスを定量的に評価することは重要な研究課題として残っている。加えて、資源ベースアプローチやポジショニングアプローチのようにそれぞれ独立した文脈で研究が行われており、これらの議論を総合する観点からの分析は重要であると、認識されつつも行われておらず、今後の研究課題として指摘されている。

## 2. 研究の目的

本研究は、経営環境の変動に対しての企業の適応行動並びに環境の構築行動についてのモデル化と評価法開発を目的として実施する。企業を取り巻く経営環境は激しく変化しており、従来の静的な戦略観では不十分であることが指摘されている。環境変化と企業の関係については、ダイナミックケイパビリティ論やダイナミック戦略論に関する研究が行われてきたが定性的研究に基づくものが殆どであり、定量的研究は十分に行われてはならず研究課題として残されている。この課題について、本研究では最新の計量手法を用いることで、企業の内部適応・企業のポジション変更・ポジションと内部適応の共進化に着目し、研究を進めパネルデータを用いた実証研究の実施を行う

## 3. 研究の方法

本研究では、企業の環境適応行動について、組織内部における適応行動と外部環境への働きかけと、その効果について明らかにすることを最終目的として研究を進める。この課題を果たすために、これまで実施してきた組織のケイパビリティに関する学習についての実証研究、ダイナミックケイパビリティの測度に関する研究を発展させることをに加え、企業の環境適応のダイナミクスとそれらの共進化の構造を最新の計量経済モデルを利用し定量的に評価する必要がある。

具体的には、組織能力学習の可視化、競争ポジションの可視化、環境変化と能力蓄積の同時方程式による、効果分析の3研究を実施する。

## 4. 研究成果

企業の環境適応行動について、組織内部における適応行動と外部環境への働きかけと、その効果について明らかにすることを最終

目的として研究を進める。この課題を果たすために、これまで実施してきた組織のケイパビリティに関する学習についての実証研究、ダイナミックケイパビリティの測度に関する研究を発展させることをに加え、企業の環境適応のダイナミクスとそれらの共進化の構造を定量的を行う。

本研究課題の初年度の成果として、評価法開発のためのモデルの提案並びにデータ収集を実施し、学会等でモデルの提案を行なった。特に、これまで行なってきた組織能力のダイナミクスに関する研究で、データの制約上行えなかった組織能力学習の一般化についての研究、ダイナミックケイパビリティ尺度の評価研究、戦略グループ論の動学化についてのモデルの提案を学会報告並びに論文によって発信した。

組織内部における変化への適応行動を主眼にコホートモデルを用いた従業員の適応行動についての調査並びに分析を行い日本経営学会において研究報告を行った。

具体的には、企業家志向性について従業員レベル、経営者レベル、組織レベルそれぞれの階層を考慮した上で組織の志向性の変化のプロセスを分析する枠組みを組織社会化の概念を利用して提案した。

分析の結果から、従業員の社会化については在職年数の影響があること、在職年数が及ぼす影響は一定ではないこと、組織内の風土が従業員の社会化に影響をおよぼすこと、経営理念の浸透が従業員の社会化に影響をおよぼすことが確認できた。

個別の分析結果を示すと、企業の在籍年数、特に3年-5年の在職期間で企業家志向が上昇し経営者に近づく。これは在職によって従業員の過小なEOを改善することを意味しており、従業員は経営者を学習の規範として活用している可能性が見いだされる。経営理念について、経営理念の浸透は従業員EOを増加させるため、従業員EO

が経営者EOよりも低い従業員が多い場合、経営者との差異を縮小する効果を持つ可能性が指摘できる。企業EOについて、企業家志向性の企業内平均値や組織内の情報交換によって経営者との距離が離れていくため、組織内での同一化は問題があると考えられる。ことを明らかにした。

これは、本研究のテーマである組織の環境適応行動は前年度報告した組織レベルでのマクロな適応行動とともに組織内部のミクロレベルでの適応行動のリンクを解明する必要がありその手がかりとして今年度の研究を実施したものである。また、別途、組織構造の影響を企業レベルで分析するためのモデルについて組織学会でも研究報告を行っている。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 5件)

菅野洋介,柴田聡: "製品デザインに関する組織要因と部門間調整" 日本経営学会誌 32. 55-68 (2013), 査読有

yousuke kanno,satoshi shibata:

"Organizational Factors in the Design Development Activity" CAMBRIDGE ACADEMIC DESIGN MANAGEMENT CONFERENCE Proceedings 3. 1-12

(2013), 査読有

柴田聡, 王疆: "ダイナミックケイパビリティの測定に関する研究-不確実性によるアプローチ-" 実践経営研究 5. 243-252 (2013), 査読無

柴田聡, 王疆: "R&D ケイパビリティの学習プロセスに関する実証研究 - 日本医薬品メーカーを例に" 日本経営学会誌 31. 15-26 (2013), 査読有

〔学会発表〕(計 0件)

〔図書〕(計 0件)

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

## 6．研究組織

### (1)研究代表者

柴田 聡 （SHIBATA , Satoshi）

山形大学・人文学部・講師

研究者番号：20609250